

内山一美先生との CJK（日中韓）シンポジウムあれこれ

（長崎国際大学薬学部¹）○佐藤 博¹

*Keywords : CJK; GC discussion groups; 2017 Asia/CJK Symposium; China-Japan-Korea
e-mail : satoh@niu.ac.jp*

CJK（日中韓）分析研究交流シンポジウムは、2002年にガスクロマトグラフィー研究懇談会（GC懇）の40周年記念事業として、都立大学から中国科学院に帰国した林金明教授と保母敏行都立大名誉教授らの尽力で、帰国留学生を中心として北京で開催したことに端を発します。2004年からは各研究懇談会が協力して、中国、韓国の研究者と研究交流と親睦を深めています。内山一美先生は、積極的に若手研究者との交流を推進されました。

2017年に東京理科大学葛飾キャンパスで実行委員長として開催された Asia/CJK は、多くの学会員の参加があり、大いに盛り上がり記憶に残る大会となりました。また、分析化学会の本部事業としての開催に尽力されました。

翌年の CJK2018 は第15回目の開催で中国福建省漳州市の閩南（みんな）師範大学および漳州佰翔圓山酒店（宿泊したホテル）のホールを会場に行なわれました。Pengyuan Yang 教授（厦門（アモイ）大学、中国）が実行委員長を努め、Shunxing Li 教授（閩南師範大学、中国）が共同実行委員長、Jinming Lin 教授（清華大学、中国）が名誉実行委員として学会が開催されました。参加者は全体で約180名であり、日本からは19名が参加しました。事務局の私は当然行く予定でしたが、出発前日の夜中にパスポートが見つからず、参加を断念せざるえませんでした。

内山先生は、私の代わりに事務局として臨機応変に対応して頂き、お詫びするとともに心から感謝しております。ありがとうございました。



CJK2019（10月）韓国民芸村休憩でのひと時の休息



CJK2016（8月）中国での挨拶